

表 1.4.2 子宮頸がんの進行期別治療法

進行期に加えて、組織型も考慮して治療法を決定する。

上皮内がん*	レーザー蒸散術、子宮頸部円錐切除術、単純子宮全摘術
IA 期	単純子宮全摘術、広汎子宮全摘術
IB 期 (頸部限局)	広汎子宮全摘術
IIA 期 (腔壁下 1/3 には達しない浸潤)	広汎子宮全摘術
IIB 期 (子宮傍結合織への浸潤)	広汎子宮全摘術
IIIA 期 (腔壁下 1/3 に達する浸潤)	化学療法併用放射線療法 (シスプラチンを主体とした化学療法)
IIIB 期 (骨盤壁に達する浸潤)	化学療法併用放射線療法
IIVA 期 (膀胱・直腸浸潤)	化学療法併用放射線療法
IIVB 期 (遠隔転移)	化学療法併用放射線療法

*新 FIGO 臨床進行期分類 (2008 年) では CIN3 に分類されている。

表 1.4.3 子宮頸がん治療患者進行期分布 (2006 年度) (日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会報告より改変)

進行期	症例数 (人)	割合 (%)
上皮内がん*	3894	47.1
I 期	2275	27.5
IA1	616	
IA2	67	
IB1	1232	
IB2	360	
II 期	1075	13.0
IIA	289	
IIB	786	
III 期	650	7.9
IIIA	48	
IIIB	602	
IV 期	369	4.5
IIVA	151	
IIVB	218	
合計	8263	100.0

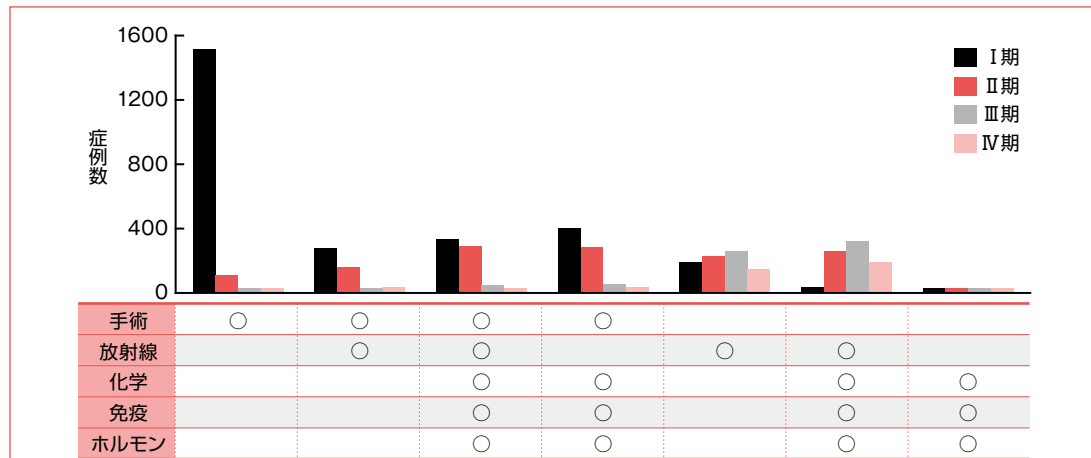


図 1.4.5 子宮頸がん治療法 (2006 年度)

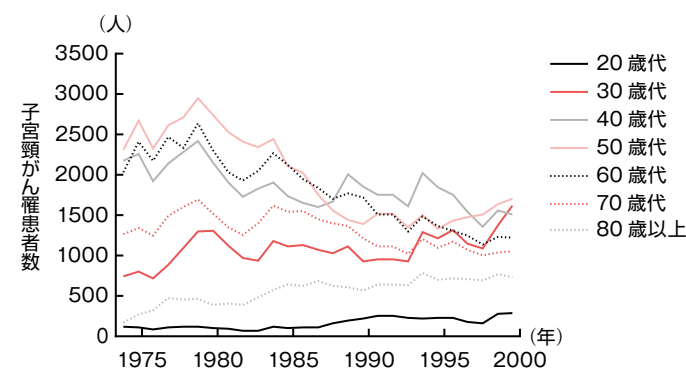


図 1.4.6 日本における年齢別子宮頸がん罹患患者数の推移 (1975 ~ 2001 年)

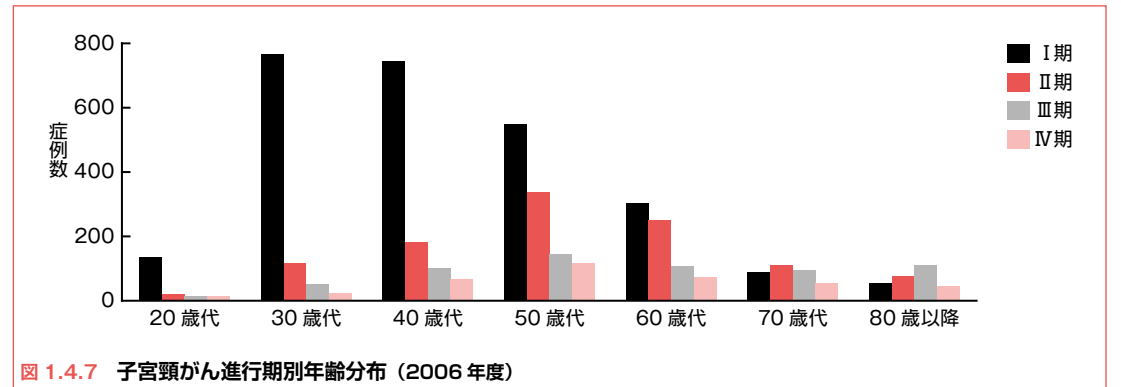


図 1.4.7 子宮頸がん進行期別年齢分布 (2006 年度)

学療法) が選択肢となる。さらに、孤立性の遠隔転移や局所再発などには手術療法も考慮される。全身状態や病状の悪化に伴い、抗腫瘍療法の施行継続が困難である場合には、全身管理を主体とした対症療法や緩和治療を考慮することとなる。

妊娠に合併した子宮頸がんの治療法

若年者での子宮頸がん罹患患者数が増加傾向にあることや、晩婚化に伴う妊娠年齢の上昇により、妊娠に合併した子宮頸がんの罹患比率も増加傾向にある。図 1.4.7 に日本産科婦人科学会に登録された 2006 年度の子宮頸がん進行期別年齢分布を示すが、20 ~ 30 歳代の若年層においては I 期が II 期以上に比べて圧倒的に多いことがわかる¹⁰⁾。妊娠に合併する子宮頸がんは上皮内がん (CIN3) や IA 期が多く、予後からみると非妊娠時の頸がんと同程度である¹¹⁾。基本的な治療方針は非妊娠時と同じであるが、臨床進行期や妊娠週数および妊娠継続の有無などにより個々に対応する必要がある⁹⁾。微小浸潤がん以上の病変が疑われる場合は、子宮頸部円錐切除術で診断を確定する必要がある。早期がんであれば、頸がんの治療と妊娠継続の両立が可能な場合が多い。進行がんの場合は、妊娠週数により対応が異なる。すなわち、胎児の体外生活が可能で状態であれば、胎児娩出後速やかに頸がんを治療する。一方で、胎児の体外生活が不可能な時期であれば、母体の救命を第一として頸がん治療を優先することとなる。

⑥ 予後

日本産科婦人科学会による『1991 年に治療した子宮頸がんの 5 年治療成績』における進行期別の 5 年生存率は、IA 期 86.5 %、IB 期 77.8 %、IIA 期 64.0 %、IIB 期 55.9 %、IIIA 期 48.5 %、IIIB 期 37.5 %、IIVA 期 23.6 %、IIVB 期 3.9 % であり、進行期が進むほど予後不良となる¹²⁾。臨床病理因子に関する解析では、組織型、筋層浸潤、腫瘍径、リンパ管侵襲、リンパ節転移、子宮傍結合織浸潤が予後と関連することが報告されてきたが、多変量解析の結果から、組織型、腫瘍径、リンパ節転移が独立した予後因子であることがわかった¹³⁾。すなわち、腺がんは扁平上皮がん比べて予後不良で、さらに同じ進行期でも、腫瘍サイズが大きいものやリンパ節転移があるものは、より予後が悪い。

2 子宮頸がんの前駆病変 (子宮頸部異形成)

① 分類

日本では子宮頸部の前がん病変は異形成 (dysplasia) として、異型細胞の上皮内分布の程度により、軽度、中等度、および高度に分類される。国際的には、子宮頸部上皮内腫瘍 (cervical

intraepithelial neoplasia ; CIN) という表現も使用されており、CIN1 が軽度異形成、CIN2 が中等度異形成、CIN3 が高度異形成と上皮内がん (carcinoma in situ : CIS) に相当する。米国でのベセスダシステム (Bethesda system) では、